

トヨタ自動車(株)

株主の皆様へ！

— 緊急告知 —

ご存知ですか？

- “エコのトヨタ”のブランドイメージが地に落ちるエゴむき出しの巨大開発の暴挙により、世界の批判がトヨタ自動車に集まりつつある事実を！
- トヨタの世界戦略に重大な悪影響を与える、この問題に対する豊田章夫新社長の経営手腕と時代感覚が問われています！

- トヨタ自動車と愛知県は、豊田市から岡崎市の緑豊かな里山地域で「研究施設・テストコース」の新規開発を計画し、現在、環境アセスメントの手続きが進められています。
- 問題は、660ha（東京ドーム 141 個分、皇居の 5.7 倍、愛知万博会場の 3.8 倍）もの国内最大規模の里山環境を対象にしており、サシバ、ハチクマ、ミソゴイ等の全国はもとよりアジアのレベルでも絶滅が懸念されている希少動植物が 70 種以上にもわたって確認されている場所を開発することです。
- ご存知のように、愛知県は愛知万博の開催に際し、希少動植物の保護問題で国際的批判を浴び、当初予定していた「海上の森^{かいしよ}」の会場変更を余儀なく迫られ、環境万博としての崇高な理念を世界に表明した経緯があります。
- トヨタ自動車による大規模自然破壊計画が明らかになって以来、2008 年 1 月 7 日と'09 年 3 月 19 日の 2 度にわたって地元の環境保護団体は、愛知万博以上の大問題になるので、開発場所の見直しを強く要請しています。しかしながら、トヨタ自動車は科学的根拠を伴わない開発規模の縮小を一方向的に表明しただけで、開発を強行しようとしています。
- さらに問題なのは、愛知県が招致し世界 190 カ国が参加する「生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）」が、来年（2010 年）10 月に愛知県で開催されることが決定し、このトヨタによる開発問題が世界各国の注目を集めることが必定となっていることです。
- トヨタ自動車はこれまで、「環境」を経営の最重要課題に掲げ自ら“生物多様性ガイドライン”まで設けて世界にアピールしてきました。また、今回の株主総会資料にも「環境対応を経営の最重要課題のひとつとして位置づける」ことが、改めて明言されています。
- トヨタ自動車の「言っていることと、行おうとしていること」のあまりにも大きなギャップは世界に通用するはずがありません。『環境破壊を伴う経済競争では、21 世紀の勝者になり得ない』というのが世界の公理です。
- このまま里山環境での開発計画が強行される場合、私たち国内の環境保護団体を中心となり、あらゆる手段を講じてトヨタ自動車の欺瞞性を世界に訴えるつもりです。すでに、国際的な環境 NGO がトヨタ車の不買運動に向けた動きを始めており、世界市場を相手にした販売戦略に重大なダメージを与えることは間違いありません。
- 開発場所を他へ変更することは、トヨタ自動車の経営健全化と事業拡大の点からも不可欠の条件です。
株主の皆様からも、計画の見直しのために、ぜひ声をあげてください！

問い合わせ先：全国環境保護連盟 代表 岩田 薫

TEL. 090-2153-4514 FAX. 0467-24-4454